

第5回

武蔵野市学校給食施設検討委員会

平成29年7月26日

於 武蔵野市役所 111会議室

武蔵野市教育委員会

平成29年第5回武蔵野市学校給食施設検討委員会

○平成29年7月26日（水曜日）

○出席委員（9名）

委員長	竹内道則	副委員長	渡邊克利
委員	田極政一郎	委員	中丸尚子
委員	後藤真澄	委員	早川千秋
委員	大杉洋	委員	牛込秀明
委員	北原浩平		

○欠席委員（1名）

委員 菅原このみ

○ワーキングスタッフ

根上修一	財務部施設課施設主査
深見操	教育部教育企画課課長補佐兼施設整備計画担当係長事務取扱
中田知里	教育部教育支援課学校保健給食担当係長
高木完治	一般財団法人武蔵野市給食・食育振興財団食育係長
柴田祐介	一般財団法人武蔵野市給食・食育振興財団業務係主任

○事務局

古藤亮 教育部教育企画課財務係主任

○次第

1. 開会

2. 議事

(1) 最終報告案について

3. 閉会

◎開会の辞

◎議事

○委員長 暑い中、お集まりいただき、ありがとうございます。いよいよ学校給食施設検討委員会も最後となりました。

最終報告の案について、今日お示ししますので、その内容について検討、協議をいただきたいと思います。

では、事務局の担当員からご説明、お願いします。

○副委員長 報告書についてご説明いたします。

基本的には中間報告の報告書をベースにしております。そこから大きく変わった点でございますが、3ページをまずお開きください。

見出しでございます。

最終報告では、「給食を安定的に供給するための対応案」。中間報告では、「不足見込み食数と対応案」と書いておりました。必要以上に不安感を持たせないようにということで、少し表現をやわらかくしております。

同じような趣旨で、表の右上、「増やす必要がある給食食数」、これは以前はストレートに「両調理場の不足見込食数」と書いておりましたが、ちょっと表現をやわらかくしております。

続きまして、10ページをご覧ください。

この最終報告書で、新しく追加される情報は、10ページの（５）、（６）でございます。

[資料1 武蔵野市学校給食施設検討委員会報告書 10ページ （５）（６）を読み上げ]

（５）では規模感をお示ししております。ここで3,700㎡前後と書いておりますが、大規模な施設になりますので、まちづくり条例に関する手続も必要になります。そこで、表をご覧くださいなんですけれども、この手続期間によっては、例えばこれが短期の間に済んだ場合は真ん中の段になります。稼働時期が平成33年度の中ごろ、大体2学期ごろかと考えられます。もしも手続が少し長い場合は、これが33年度、終わりのころ、

大体3学期ごろになると思いますが、稼働時期がずれることとなります。手続期間によっては、稼働時期が少し前後するということを表ではお示ししております。

あと参考資料にもつけ加えております。

まず、16ページをご覧ください。

検討経過でございます。

この委員会の開催状況と7月に行いました説明会、パブリックコメントの情報を載せております。

その詳しい内容については、次のページ、17ページをご覧ください。

まず、市民説明会ですけれども、5回、開催いたしまして、合計参加者41名となっております。

主な意見だけ拾ってご説明いたします。

まず、11番をご覧ください。

短期的対応について、給食の質についてご意見をいただきました。自校調理校は、センターとはメニューが違い、温かい給食が食べられているが、そのあたりの質の低下はないのかといったご意見でございます。本宿小の保護者の方からいただいております。

なお、2学期には本宿小の保護者向けの説明会を開きたいということで、今調整中でございます。

続きまして、18ページ、12番をご覧ください。

同じく短期的対応でございますが、安全対策についてもご意見いただきました。本宿小から三小に運ぶルートはどうなっているのかということで、今検討中の案を、ここでは2案、お話をいたしました。1つは西側から出る案、もう一つは東側から出る案。これも安全面をいろいろ見ながら決定していきたいと考えております。

それから、15番でございます。

先ほど説明会の話をしてしまいましたが、どこかのタイミングで保護者説明会を開いてもらえるかというご意見がありました。これを踏まえて、2学期には開催をさせていただきたいと思っております。

続きまして、新調理施設に関することです。

まず、18番、19番、20番をご覧ください。工事のときの配慮についてご意見をいただきました。

18番でございますが、建替え時の配慮を、工事が続いているので十分な配慮をしてほ

しい。19番でございますが、解体工事をするときは振動並びに騒音の対策をしっかりとってほしい。20番、工事が重なるのは近隣住民にとって大変なことなので、十分に配慮してほしいというご意見をいただきました。

こういったご意見も踏まえまして、十分にしっかりと配慮をしていきたいと思っております。

もう一つ、21番をご覧ください。

新調理施設の安全対策についてもご意見をいただきました。施設が大きくなるので、配送車による交通事故がないよう配慮してほしい。

当日は、少し詳しく回答しております。

新調理施設は中学校6校、小学校は最大で3から4校を受け持つことになると想定しております。配送車は現在より3、4校分出入りが増えるということで、現在6校なので1.5から1.6倍程度の交通量が想定されます。調理食数が5,000食ほどになり、現在の二千数百食と比べると食材搬入量は2倍程度に増える可能性があるため、その分の交通量の増加も想定されると答えました。

新調理施設の機能についてもいろいろご意見をいただきました。

22番でございますが、例えばつくられている給食を食べられるようなというご意見もいただきました。その下の23番ですが、会議室を入れるような複合化はできますかというご意見です。

続きまして24番でございますが、施設で働く人の保育所をつくって、近隣の子どももある程度受け入れたらということはできないか。その下は、学童のおやつなども、この施設でつくれるようにならないか。その下は、例えば夏休みの学校給食をつくらぬ期間に、昼食をつくるといったことは保育のためにも検討いただきたい。

さまざまな機能についてご意見をいただきました。

それから、21ページをご覧ください。

中間報告に対しては、パブリックコメントを実施させていただきました。実施期間は7月6日から20日まで、提出者は1名で、ご意見は4件となっております。

[資料1 武蔵野市学校給食施設検討委員会報告書 21ページを読み上げ]

パブリックコメントの説明は以上になります。

最後に22ページでございますが、今回の検討のベースになりました28年度の人口推計の結果も参考資料として載せております。

報告書の説明は以上になります。

- 委員長 主に中間報告案からの追加を記述した面、それから説明会、パブリックコメントでいただいた意見の紹介を中心に、最終報告書についてのご説明をしましたが、これについてご意見、ご質問があれば、どうぞお願いします。

施設整備の費用が25億円って、ちょっとびっくりされるというか、規模感がなかなかつかめないと思うんですけども、学校給食の調理業務委託って年間7億円なんですよ。それから、給食費で保護者からいただいているお金も、小中全部合わせ、単独調理校も合わせると4億円ぐらいなんです。合計すると食材から、その調理の過程まで含めると11億円ぐらいのすごく大きい事業なんです。教育全体の予算が年間60億円から70億円、そのうち11億円ぐらい、その中で、給食費には公費は入っていませんけれども、それだけ大きい学校教育にとっての大事な事業なんで、25億円というのは、そのぐらいかかる場所なんです。一応、これは武蔵野のこの場合にはどの程度かかるかというのをベースにしているんですが、ほかの多摩の——今年ぐらいに3カ所ができるんですかね、ちょうど。その辺の直近の事例も、単価を出したところ、ほぼ同じぐらいのところなんで、武蔵野の場合、ことさら高いということではないんですけども、ちょっと金額は、規模が大きいだけにびっくりされますよね。

- 委員 ここに概算での予算が25億円って、ぽんと載っているとすごくびっくりするし、せっかく29年度に開設の東大和市とか福生市とか府中市の事例というのが書いてあるので、できればこのところで、口頭でもいいですから、大体何食ぐらいで、どのぐらいだったというのがわかると、武蔵野市と比較すると、「ああ、ほかのところもこのぐらいなんだ」というのが、若干分かるかと思います。それが、このぐらいあって、例えばそこが約23億円前後ぐらいで何千食でした、ここは25億円で何千食でしたっていうのがちょっと見ると、「ああ、じゃあ武蔵野市で、この食数の3,700㎡の規模のものをつくっても、このぐらいになるのはしょうがないのね」というところに落ちつくかなと思うんです。ぽんと25億円って出ると、やっぱり「ええ、そんなにかかるの」という感じがします。参考になるような、何かしらのサポートがあると分かりやすいと思います。

- 委員 具体的な調査をこちらでしましたので、多摩地区の給食センターを持っている自治体の連絡協議会があるんですけども、そちらで調査を行わせていただきました。3市は福生、府中、東大和ですけども、数字だけ申し上げますと、福生市は29年9月、これから開設の予定で、4,000食で約4,800㎡ぐらいの広さの施設です。総額で30億円ぐ

らい。府中市が、これはもっと大きいんですけれども、これも今度の9月に開設で2万2,000食、1万4,300㎡、設備も含めた建設費が約95億円。東大和市さんが、今年の4月に開設で、8,000食で3,900㎡、29億5,000万円ぐらい。その辺の事例から設備が非常にお金がかかる施設ですので、建築費、設備費を合算した平米単価を出して、その想定している3,700㎡に掛けてみると、先ほどの数字に大体なるというような試算です。

○委員 そうですね。余り大きいところだと、何かすごい金額に聞こえて、すごく大きいところなんで比べようがないんですけれども。やっぱり平米数と食数が近いところの金額を聞くと、ああ、やっぱりそのぐらいほかのところでもかかるといのが、ちょっと納得ができることなので、29年度に新規でというよりも、食数が似ていて、近年であって食数が似ていて平米数が近いもので、金額が近いものをお願いいただけると、「ああ、やっぱりそのぐらいよそもかかっているのね」ということで、ぜひ説明するときにあつたほうがいいと思います。

○委員長 そうですね。

ほかはいかがですか。

今回、スケジュールを入れて、しかもまちづくり条例の手続が、短期の場合、長期の場合って敢えて入れているんですね。これは平成33年度中だったら何とか大丈夫なんですけど、平成34年になると960食ぐらい足りなくなる段階に入るので、要するに我々としては、33年度中に何とか死守して、この辺のデッドラインを死守していくべきだということ、一応この33年度の幅の中で何とかやっていますと。

新築工事の書いてある期間というのは、上の場合も下の場合も同じ、ほぼ同じ工期なんですか。

○副委員長 ここは、そうですね。15カ月ぐらいを見込んでおります。

○委員長 まちづくり条例の手続というのが変わることで、動いていくというだけですか。

○副委員長 はい。

○委員長 ここのところによって、それが決定的にずれてくると。何とか、この33年度中にしていきたいというところの趣旨も含めてなんですが。

○委員 すごく初歩的な質問なんですけど、まちづくり条例の手続が短期の場合と長期の場合って、何でこれ長期と短期とがあるのですか。タイミング的な問題ですか。

○委員 基本的には近隣説明会とか、近隣から例えば反対意見が出たら、調整会という会

を開くんですね。それが1回で済めば、そのままスタートできますし、その調整会の内容でまた意見があれば、2度、3度と調整会を開かなきゃいけないので、その期間が6カ月、7カ月ぐらいの期間の違いが出てくるのかなと思ったんです。

○委員 ありがとうございます。

○委員長 その調整会が多いか少ないかというのは、いわば役所側の都合で、多くしようとか少なくしようとかいうことなのですか。

○委員 いや、それはもう市民からの意見があれば、そういう会を開かなければいけない。

○委員長 近隣の住民ですか。

○委員 近隣の住民ですね。ですから、最初からそういう質問が出ないような、当然その後も用途の許可とかも必要になってきますから、近隣に配慮した設計をしなければいけないし、騒音とか振動、こういうことも全て配慮して、それを十分に説明した上で、これ以上ないだろうというところまで説明しないといけないのかなと思いますけれども、そういうことを踏んでなるべく調整会を少なく、スムーズに進められたらなというふうに思っています。

○委員長 役所側の説明にもよると思うんですが、こちら側の都合ではなくて、それを受けとめる近隣というか、地域の側のそういうご要望によって幅が出てくるということですね。

○委員 短くやっていただくには、上手に近隣の方に納得していただく説明と、こういう資料を用意しなきゃいけないということですよ。

○委員長 ほか、いかがでしょうか。

○委員 今の(6)のスケジュールのところにある、「準備」って短く矢印がありますけれども、これは本当に仮に稼働してみると、給食の試作をするというような、稼働に向けての準備ということで認識はあったんですか。間違いありませんか。

○副委員長 はい。本格稼働に向けての事前の準備ということですね。

○委員長 どんなことをするんですか。

○委員 ものができ上がって、当然、衛生管理なんかも新しい対応をするというふうになりますので、新機能を持ったり、新設備になりますので、まず調理員や栄養士が、その扱いに習熟する必要がありますね。そういう研修期間とかをとらなきゃいけないのと、あとはそのでき上がった後に什器、備品類を搬出、搬入、いわゆる引っ越し期間というものもそれなりに必要ですので、たしかこれ3カ月ぐらいでしたっけ、この幅は。3カ

月ぐらいとっていて、本当にぎりぎりの、本当はもうちょっと余裕があればありがたいぐらいなんですけれども、ミニマムで3カ月ぐらいかなと思いますね。

○委員 それで、早ければ2学期というのは、夏休み前にはもう無理、夏休み込みで研修もする。時期的には、子供たちの夏休み込みで研修なり引っ越しなりをして、早ければ2学期からというような感じ……

○委員 そうですね。年度で動いているので、4月というのも本来あり得るスケジュールなんですけれども、どんな組織も人事異動があったりとか、割と年度末というのは忙しいし、年始というのも、子供たちも新入生、卒業生、アレルギーの新しい対応をどうするか、すごく煩雑な時期なんです。ですので、こういう移行については、給食の場合は割と2学期明けの9月というのが、いろんなことを考えると一番適した時期かなと思います。ただ、そうはいつでも遅れた場合のことがありますので、何とか年度内中には稼働させなきゃいけないということになりますけれども。

○委員 準備期間に、そういういろいろなことの中で、実際につくってみるとか、実際に釜を動かしてみようということも準備期間でやるんですよね。ぼっと思ったんだけど、実際に食数を作ってみたりとかも……

○委員 作ってしまって、食べてもらわないと残っちゃうので……

○委員 作るのと、この間、試食会じゃありませんけどね。みんなで、こういう準備して、今こういう期間で、子どもたちにこれからこういうことをやりますというのを、もしその準備期間に、デモンストレーションじゃありませんけれども、見られたりとかして、もうちょっと理解を深めていけるようなものになればな。ただ単に準備してますよというんじゃないで……

○委員 さっき金額の面で3市、ご紹介しましたが、うちもこれから造るので、ぜひ見に行きたいという希望を持っているんです。ところが、大体相手に聞くと、準備作業中でてんでこ舞いで、来てくれるなど、そんな余裕ありませんという感じになっているので、うちも多分そうなのかなという、そういう気はしていますけれども。

○委員 行けるとしたらあれですね、もう最後の最後の仕上げの段階でいうところ。

○委員 でき上がった後じゃないと多分、本当にうまく稼働するかってどこも不安でやっているんで、多分相当余裕はないのかなという気はしますけれども。

○委員 余裕のある準備期間というよりは、結構もうスケジュール的にはいっぱいということですね。

- 委員 そうですね。3カ月でミニマムかなというふうに思います。
- 委員 本当はもう少しゆとりができるといいんですけども、年度、年度で動いているとぎりぎりですものね。
- 委員長 実際にはそれぞれの過程で、まちづくり条例とか、それから新築工事も15カ月というのは、どの程度かというのは幅があるものだと思うんですけども、この年度の単位で、委員が言うように見ていくと本当に綱渡りですね。
- 委員 ぎりぎりですよ。15カ月で工事できるんだというのが、すごい驚きですけどね、そういう大きい施設ものというのが。あつという間なんですね。
- 委員 そうですね。まだ、今、更地になっているので、そういう意味では着手しやすいという状況にあります。
- 委員 ああ、上物がない状態なんですね。
- 委員 鉄筋じゃないんですよ。鉄骨づくりなんですね。
- 委員 まあ、これはこれからやります。一般的には鉄骨でつくっているところが多いかなと思っています。
- 委員 この間、桜堤調理場でちょうど見学させていただいたんですけども、まあこのスペースでよくそれだけの子どもたちの食数をつくっているなど、見ながら思っていて、新しい施設のほうでは少し余裕が持てるといいなと思いました。
- 委員 新しい今度つくるところは、HACCPの新しい基準で、安全衛生の基準でつくらなければいけないので、今の環境とは全然変わってくるかなというふうには思います。
- 委員 この間、行ったのが、あそこはすごく緑豊かないい場所なんですけれども、やっぱり季節によって葉っぱが入ってきたり、あとは虫が入ってきたりというのが、すごく環境はいいということに対して、食品をつくるのには、やっぱりそういうふうに調理施設の人がすごく気を使っているという話があったので、そういうのも新しい調理施設になったら、少し皆さんの大変なのが改善されるのかなと思いつつ……
- 委員 それなりの設備をしないと、とは思いますがけれども。
- 委員 前回もちょっとお話をしている、地域に関して緑地をなるべく保全したいというのはもちろんなんですけれども、調理施設としては、そういう自然豊かな環境というのが必ずしも衛生管理面でプラスには働かない部分もあるので、その適正な管理ができるような緑地にしないと、かなり問題が起きる可能性があるんで、その辺は周辺の方にご理解をいただければありがたいと思います。

○委員 やっぱりその緑地を残してくれて、緑化をいよいよというふうにして、その面だけ見ると、いいじゃない、その木を残しておけばと思いますけれども、この間、初めて桜堤調理場に行って、緑豊かでもいいんだけど、まず着いたら葉っぱを掃除することから始めないといけない、枯れ葉をどけること、万が一、風でそれが中に入ってきたらというのを聞くと、ああそういうのが大変なんだなって。行って、直接そうやって聞いてみないとわからないことというのが、すごくいっぱいあったなと思うので、新しい施設にしても、これからどういうふうにつくるにしても、やっぱりいろんなところで皆さんに理解していただかないとまらないなとつくづく思いました。

○委員長 あと、先ほど説明会でいただいた意見と、それからパブコメについて紹介をしてもらったけれども、概略を説明していただきましたけれども、それを反映して直さなきゃいけないとか、そういうことはなかったという認識でいいんですか。

○副委員長 そうですね。この報告の後に、さらに基本計画を策定いたします。そこでは施設の仕様を考えていきますけれども、その段階で例えばいただいた施設に求める機能に関する意見とか、安全対策とか、しっかりと盛り込めるものは盛り込んでいきたいと思えます。

この報告書の段階では、特に修正する箇所はございません。

○委員長 委員、いかがでしょうか。

○委員 いえ、いろいろ、学校現場としては、やっぱり早く、もう子どもたちの給食が配給できるように、いち早く施設を進めてもらいたいという希望ですので、よろしく願いますというのが一番、地域の人にも反対しないほしいなど。

○委員 この報告書は、この状態で地域説明会などに使うということになるんですか。

○委員長 今後のことについて、いいですか。

○副委員長 今後、8月の初めですけれども、教育委員会の定例会がございます。そこで報告書という形で報告をいたします。教育委員会のほうは、これに基づきまして今後の方針を決定いたします。その後、議会等々、報告をしていきますが、あわせて説明会等では、この報告書もありますけれども、一度わかりやすい概要版もつくって、分かりやすく説明していきたいと思えます。

○委員長 この検討委員会は教育委員会に設けた委員会ですので、それを1回、教育委員会に返して、教育委員会としての方針として定めるというステップを踏むので、それに基づいて市のほうで、予算のことであるとか、それから今度はまた議会に対して予算をお認め

いただくとかという、そういうステップを踏んでいく必要があるので、その流れで、これから入りますということになります。

○委員 前回の会議をやったときに、桜堤のあの地区で説明会があるって言っているときでしたっけ。そのとき、ここには書いてあるんでしょうけれども、様子ってどんな感じだったのかなど。

○委員長 説明会の報告をいただけますか。

○副委員長 まず、説明会でこちらからお話しした内容なんですけれども、この報告書の話の前に、武蔵野の学校給食はどういったものなのかというのをDVDでご説明いたしました。その後、中間報告書のエッセンスをスライドを使ってご説明しまして、あとは質疑の中で理解を深めていただくという形にしました。桜堤地区は、最初に桜野小学校でやったんですけれども、先ほど申し上げたとおり、やはり工事への配慮等々は意見を多くいただきました。あと機能の話ですね、こういった機能にしてほしいとか、貴重な意見をいただいたと思います。

総じてストレートに賛成ですというご意見もありましたとおり、何か反対であるというご意見はなかったと思います。

○委員 工事への配慮とか機能的なことでの意見ということですかね。

○副委員長 はい。

○委員長 東の地区はどうでしたか。

○副委員長 東の地区は、逆にあそこは本宿小学校は自校調理施設ですので、その給食の内容がどう変わるのかですね、そこに結構関心が集まりまして、ちょっと説明が不十分な部分もございましたので、それはまたしっかりと次の説明会でお話をしていきたいと思います。基本的には、武蔵野の学校給食の水準は落としていかないんだということをご理解いただけるように、説明はしていきたいなと思っております。

○委員 そこは、給食の質が下がるんじゃないかという心配が出た。

○副委員長 そうですね。自校調理施設は、自校調理施設ならではの献立とか、お弁当給食とか、いろいろ工夫をされています。それが食数が多くなると、その分、余裕がちょっとなくなって、献立の低下につながるのではないかと、そういったご心配もいただきましたので、しっかりと説明をしていきたいと思います。

○委員 その件について、単独調理校といっても400食ぐらいの本宿小から900食ぐらいついている桜野小まで、結構、バラエティーがあるんですね。端的に言うと、食数が少ない

ほうがより丁寧にやれるし、やってきているという状況があるんですね。今回、単独校としての良さなりの、基本的な水準については、本宿小が多くなったからといって下げるということはなくて、維持をするという考えなんですけど、ただ厳密に言うと本宿小が今400食レベルでできているような、例えば行事食の一部であるとか、そういったものについては、800食、900食なりの親子給食になったときに、そのまま丸々やれるかとなると、やはりある程度そこは我慢してもらわなきゃいけない分は多少は出てしまうんですね。ですので、ちょっとその辺、本宿小の方だけが純粹に今の規模の内容を全く維持してくれとなってしまいますと、なかなか難しい部分はあるんですが、総体としての単独校の水準維持についてはやらせてもらうというぐらいの感じになってきますね。

○委員 今、桜野小で児童数が911人の、教員が五十前後ぐらいいるので、約1,000食ぐらいつくっているわけですね。あそこでつくっていても、やっぱり行事食だったりとか、伝統食だったりとかもちろん入っていますし、毎月、毎月、見ると本当にいろんな工夫をしてやっているの、1,000食近くでもできることはすごくいっぱいあるんですね。400食でも1,000食でも工夫次第でできることもあるし、あとは1・2・3年生なんですけれども、1年生にその日とれたトウモロコシの皮をむいてもらって、そのむいたものを、今度、給食に出したりとか、2年生はソラマメだったかな、ソラマメのシーズンになると、みんなでソラマメのからをむいて、そのむいたものを給食に使ったりとかしています。なので、自校式であるからこそできる、そういう食材の生の状態に、調理前の状態に触れるということもできていながら、その食数をカバーしているの、そのまんま同じことというのはできませんけれども、でも桜野小はそれでもできています、給食になっても変わらずおいしい給食を届けますというのが、非常に伝わってくると安心するのかなというのがありますね。

○委員 そうですね。桜野小の水準については、維持していきたいなと思うんですね。

○委員 そうですね。なかなか全く同じとは言えないけれども。

○委員 ただ、お話をさせていただいた時点では、子どもの給食を、いや、決して嫌ですとか、そういう思いではないんですけれども、自分たちの自校の給食にとっても誇りというか、リスペクトしているところがあるので、そこについて簡単に数が足りないからというような、まあわかってはいるところなんですけれども、そこをちょっとやっぱり配慮をしてほしいというようなご意見だったと思います。

○委員 足りないから、ここの給食を増やして三小にあげてくださいってすると、何でうち

がってなっちゃうけれども、だけどやっぱり本宿小でやってほしいことも、三小さんに触れさせてあげたいという気持ちを分けましょうって言われると、「ああ、まあね、うちの給食すごいよね」という議論になるのかなという。何でもかんでもそうなんですけれども、この工事をするに当たってもそうだし、やることはやる、結局、親子給食になることはなるし、新しい施設もつくることはつくるんだから、だったら受け取る側が、じゃあやろうかって思ってもらえる、沿ってもらえるほうにちょっと上手に説明をしていただきたいかなというのがありますね。

○委員 説明次第ですよ。

○委員 そう、説明次第だと思いますよ。この報告書をそのまま今後も使うのであれば、本当に重箱の隅をつつくように見て、この書き方よりこっちのほうがいいんじゃないというふうに探して、より住民の方のほうで、こう書かれちゃうと納得できないというふうに思わないように持っていければいいなというのが、前々からもともとしっかりとっておけば、桜野小でそのときに説明をしたように、緑のところをこうしてほしい、緑地帯をこうしてほしい、周りの騒音をこうしてほしいというところだけ本当に押さえておけば、誰もやっぱり嫌って言う人はいないんですよ。新しいのをつくるに当たって、じゃどういうふうにしたらいいかというふうに、本当に住民の方と一緒に沿っていただきたいのと、その気分を、やっぱりその気持ち、そのまんま三小と本宿小のほうにも。

ちょっと聞いたのが、桜野小と桜堤コミセンと西部コミセン、桜堤調理場の説明会側では、工事をします、工事をしたいんです、ここに決めたいんです、こういうのがやりたいんですというので、すごく沿っている感じはあったということで感想があったんですね。でも、本宿コミセンのほうは、つくるのはいいけれども、私たちは親子給食のほうをもっと聞きたかったという話があったんですね。その場所によって、やっぱり説明が全く全部同じっていうわけにもいかないから、桜堤のあそこら辺で言うのは、工事のことは物すごく注目して見ますけれども、親子給食のことは、「ああ、そうなんだ」って多分さらっと終わっちゃうんですよ。ただ、そこのやる場所、場所によって、もうちょっと本宿のほうは、親子給食をやるに関してしっかりとした厚い説明のほうが必要だし、逆に桜堤調理場のあの近辺に関しては工事の配慮についてということで、ちょっとやっぱり説明をするポイントを変えていったほうがいいのかかなんていう、後から説明会に参加した人の話を聞くとそんな感じでした。

○委員長 今後、方針が定まって、例えば工事に入って、いろんな諸手続でご説明に行きま

す。それから、さっきの本宿小ね、本宿地域もこれからご説明するということになる、やっぱりそういう力点を置いた説明がより必要になってくるということ、事務局のほうで担ってやってまいりたいと思います。

○委員 よろしくをお願いします。

○委員長 ほかにはいかがでしょうか。最終報告について。

○委員 私も正直、給食のことで、うちは本宿と三小のほうなんで、親子給食のほうなんですけれども、関心がないわけではないと思うんですけれども、本当に頭に「？」がいっぱい、どういうことというような感じだと思います。本宿さんのほうが、本当にちょっと熱心というか、変な話、危機感というか、どうなってしまうんだらうというのがあると思うので、説明会にもお母様たちいらっしゃっていただけなんですけれども、できればそのお母さんたち、保護者の温度って実は似てたほうがよくて、あつちは熱いのにこっちは冷めているみたいな、そういうのだと余り地域的にも近いのでよろしくないのではないかなと思うので、できれば本宿でも説明会を開催しますけれども、三小にもそういうちょっとこう、保護者向けのお話というか、そういうのはしていただきたいなと思いますし、それは校長先生とかそういう、校長先生からでも全く問題はないと思うんですけれども、何かしっかりと一度、始まる前に説明をしていただくほうがいいかなと。地域柄、本宿の地域なんだけれども、三小に来ているとか、三小の地域なんだけれども、本宿に行っているとか、ちょっとこう、ある地域なので、なるべくそういうところであつれきはつくりたくないなと思いますので。

○委員 東のほうは本宿コミセンだけ……

○委員 ですかね。

○委員 桜野のところは、桜堤コミセンと西部コミセンと調理場と小学校でやってくれたので、小学校のほうやっぱり参加人数も多いし、小学校での説明会のときは、学校で家庭数で紙が配られたのですね。そういうこともあって、やっぱり参加数が多いと思うので、本当は本宿小学校と三小と学校の多目的室か何かでやってもらえれば聞きに行きやすいですね。

○委員 聞きに行きやすいですね。

それから、もともとが三小は給食センターから来ているもので、それが本宿から来るって、スタイルとしては変わらない。だけれども、やっぱり近隣では温度が違うので、そこについてやっぱり気がついてほしいというふうに、気がついてほしいとか知っておいてほしい、同

じ、近い地域に住んでいる人たちなので……

○委員 それは学校別にやったほうがいいですか。それとも本宿小でやる会に三小の方にも呼びかけるほうがいいですかね。

○委員 いや、本宿小は本宿小でやっていただいていたほうがいいと思います。

○委員 別々でやりますか。

○委員 はい。ただ、私たちにも給食センターから今来ているものが、こういう流れの中のこういうところにいますという、その大きな流れの説明と、あとは給食センターではなく親子給食という方式をとることになって、そのために学校間で、校長先生同士で配車についてのこういう安全対策ですとか、そういうことをしていますと、子どもにも十分配慮しています。本宿、私たちのほうは本当に給食センターから来るのだと余り抵抗がないんですけれども、違う別の学校から調理されたものが来るとなると、やはり自校給食に対してそういう思いを知っているからかもしれませんけれども、やっぱり同じ保護者としてどういうふうにあっちは思っているのかしらって思わなくもありませんね。だから、それはその施設をつくるつくらないとかそういうことではなくて、やっぱりみんなにとっていい施設であってほしいし、いい親子給食であってほしいので、やっぱりそういうところで最初からつまづかないように、最初からというか、気持ちの面で、気持ちの面だけだと思います。誰も反対するようなことではないので、そういうところにちょっと配慮していただけたほうがいいなというふうに思っています。

○委員 でも、三小さんだったら、本宿の給食施設というか、どういうのをやっているかは知りたいですね、多分ね。次から自分のところの子どもたちが食べるのが、今までここだったというのが、給食センターだってわかったのが本宿に移るということは、本宿の給食ってどんなんだろうと気にもなるしね。

○委員 過度な期待も困るし……

○委員 かといってね、何かすごく給食施設より自校式のほうってだめなんじゃないって思われても嫌ですよ。

○委員 過度な期待も困るし、その逆も困るし、何か本当に正しい情報が出されたほうがいいかな。知らないというのは、親としてはちょっとよろしくないと思うので、知っていてほしいというのはあります。でも、それを本宿と三小と合同でやる必要があるかという、決してそれはないと思うので、日程とかはその学校、学校でつくっていただければいいかなと思います。

○委員 温度差もあれば、出てくる思想も全部違うでしょうし。

○委員 そうなんです。きっと三小のほう、本当に何でも受けとめている側なので、受けとめているというか、武蔵野の本当に給食のスタンダードを今は食べているというものになるので、本当に受けとめ方は全然違うと思うんですよね、本宿さんと。

○委員長 それぞれに説明ね、具体的にどういうふうにするかは別として、そういうような趣旨でご説明をしていくように考えたいと思います。

大昔なんですけれども、本宿小学校がプールがなかったときがあるんですね、数十年前ですけれども。そのときには、本宿小学校の子どもがプールを借りに行ったりとかありますので、そういう助け合いも近隣の学校だったらあるんでしょうね。

○委員 説明会に参加した方が、少ないなっていう思うんですけれども、これってさっきも言ったんですけれども、桜野小学校の多目的室、7月1日の回は、これは子どもが、もうお手紙を持ってきたんですね、学校で配られて、お手紙を持ってきて、ああ、あるんだというのは保護者としてもらったので、そのまま見に行っただと。近隣のところには、直接、ポストインされたらしくて、近隣の人たちが、そのままその手紙を見たから来たという形なんですけれども、ほかのところ、これ少ないです。日程的な問題なのか、それともこの応募の仕方がよくわからなかったのか、どうしてこういうあれかななんて思ったりしたんです。

○委員長 市報でもご案内したんですよね。

○副委員長 ご案内の仕方としては、委員がおっしゃったとおり、桜堤地区については事前にポスティングをして、会えればお話もしていました。本宿小のほうも、ポスティングして、学校経由でもお手紙のほうは送らせていただいたんですけれども、多分期間が短かったというのもありまして、参加者が少なかったのかなと思います。

○委員 ほかのところもそうだし、試食のときも、どうしたんでしょうかね。私も応募は気づかなかったです。市報で知ったので。

○副委員長 そうですね。ちょっと小さい記事だったんで。

○委員 私は、ここに、会議に出てたので、募集しますというのは知っていましたけれども。

○委員長 大事なことなので、3校区の方においでいただいて、ご説明はしたいとは思ったんですが、なかなかいろんな制約の中で、こういう人数でしたので、今後はより先ほどの学校ごとのご説明も含めて、より多くの方にご理解いただいて、状況についてわかっていただくようにしたいと思います。

では、このことについては、ほかにご意見なければ。

ちょっと細部の表現については、お任せいただくところあるかもしれませんが、こういうことで最終報告として、まとめさせていただくということでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

では、今日の議事としては、これが確定したということで予定の議事は終わったんですが、ほかになにか事務局のほうでありますか。

特にありませんか。

それでは、予定されていた議事が終了いたしました。

これで、おかげさまで最終の報告がまとまって、私どもは一番懸念している給食の施設の対応方法がようやく見えてきました。あとはしっかり、遅れないように、それぞれの手続を責任を持って進めてまいりたいと思います。ご協力、ありがとうございました。

◎閉会の辞

○委員長 では、武蔵野市の学校給食施設検討委員会については、これで終了させていただきます。

ありがとうございました。

午後 2時51分閉会